

地域医療連携室報

年頭挨拶



院長（地域医療連携室室長）

洲上 忠彦

明けましておめでとうございます。

おめでとうと申し上げまして、近年、医療界は暗い話題のみで、私自身も晴れ晴れとした新年を迎えたことはありません。連日の如く、妊婦、救急患者のたらい回し、受け入れ拒否がマスコミで報じられ、医療崩壊が急速に進んでいます。この原因は医師不足にあることは明らかで、1983年に発表された当時の厚生省保険局長の論文に記された医師が過剰になると膨大に医療費が増えるとの「医療費亡国論」に端を発します。国はこれを根拠として医学部定員を削減し、それに2004年に導入された新医師研修制度が医師の偏在を引き起こしました。当院はまだ恵まれた状況にあると思いますが、幾つかの診療科で医師が補充できず診療を縮小せざるをえなくなり、昼夜を分かずの救急患者の受け入れ、インフォームドコンセントの実施、患者さんの理不尽な苦情などへの対応で医師は疲弊しています。さらに、小泉政権になってからは財政再建という錦の御旗を振りかざし、過酷なまでの医療費削減策を断行し多くの医療機関が経営的に苦しい状況に追い込まれています。市場原理主義を取り入れた小泉政権の構造改革は光と陰を生みだし、前回の参議院選では弱者の悲鳴が与党自民党を



惨敗させました。自民党もこのまま弱者に配慮しない構造改革を続けると次の選挙が心配だとあわて始めたみたいで、効果的なお灸であつたと思っています。次期衆議院選はなめられつばなしの医師会が政府、厚労省に一矢報いる千載一遇のチャンスだと思っています。選挙公約に社会保障、医療制度をどうするかを明確に掲げてもらいたい納得できる候補者に投票すべきだと思っています。地域医療の崩壊をくい止めるには政治の流れを変えるしかありません。そのためには、日本医師会が内部抗争をしている場合ではないと思います。開業医と勤務医は病診連携のみならず医療政策面でも緊密に連携し、地域住民が安心して医療が受けられる体制の確立を国に要求すべきです。今年こそは医療界にも明るい日差しが射すことを祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。地域医療機関の皆様、本年も当院を宜しくお願い致します。



看護部長 二宮 由美子

あけましておめでとうございます。

この紙面で年頭のご挨拶をさせていただくたびに皆様の日ごろのご支援、ご協力あって当院の役割が果たせることに感謝いたしております。

平成9年に地域医療連携室を立ち上げて、昨年は10周年にあたり、関連の皆様方に広くご意見を頂く機会を持つことができました。貴重なご意見、率直なお声本当にありがとうございます。これからの地域医療連携室の運営の参考にさせていただきますと思っています。

平成11年には、看護連携の必要性を認識し、部内において看護連携プロジェクト委員会を立ちあげ、翌12年看護連携推進委員会として発足させました。当院を退院した患者様がどのような病院や施設あるいは在宅で療養しているのかを知り当院の看護のあり方を考えることとしました。病院施設等にお願ひし、3年間に延べ82の施設等（病院、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション）の見学や同行訪問等、延べ372名（当院正規看護職員約2/3に当たる）が経験できました。改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。又この年から院外諸機関との合同研修会を開催してまいりました。（本年も2月9日開催の予定で、現在50の施設から150名を超える参加の情報を得ています。より多くの皆様の参加をお待ちしております。）よりよい連携を目指して、パネルディスカッション、報告会、研修会と方法も検討して参りました。おかげ

さまで院外からの参加者は、看護職者はもちろん介護支援者、ケースワーカー、事務部門の方々等100名を超えるようになっております。このような経緯の中から、平成14年には地域の一般病院、療養施設、介護保健施設、在宅医療・福祉を担う方々と一緒に、「地域住民の健康、生活の質の向上」について話し合うことを目的に「地域医療連携を考える会」を立ち上げ、この地域に住む者として、又この地域の医療・福祉に携わっている者としての地域の医療を考える会として、自主的な集まりとして活動が続いているのが現状です。

一人の患者様を中心にその周囲の関係の人々が、何ができるか、何をしなければいけないのか、何をつなげるのか、その「何を」を、お互いの立場を尊重しながら、協力していくことではないでしょうか。

これは、ある赤十字病院の理念と基本方針です。私個人的に素敵だなどと思ひ、ここに挙げさせて頂きました。医療人として、きつと皆様も同じ思いではないでしょうか。今年もご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

「愛の心を高める」
基本方針としての4つの愛
病む人への愛
同僚と職場への愛
地域住民と地域への愛
地球、自然、命への愛



事務部長 青野 泰彦

新年明けましておめでとうございます。

今年は、干支でいう「子」年です。十二支の初めに戻ったという事で、陽気が地上に出て新芽が伸び新しい生命力が創造される年、と言われています。また「子」という文字は、どんどん増えて伸びる様子を表す象形文字で、「増

える」「茂る」「はびこる」という意味を持っています。

昨年を表す漢字が「偽」ということで、社会的にも政治の世界でも、「しんじられなうい！どんだけー！」と叫びたくなるような一年でしたが、今年こそは大繁栄、大成長が期待できる年となつてもらいたいものです。

病院が繁盛するということ、病人が大勢いるということを決して目出度いことではないのかも知れません。でも、一度も身体具合を損なわずに一生を終える人のほうが少ないのですから、明るく健康で暮すためのお手伝いをしていと考えて、頑張ってくださいと思っています。

前回号でご報告いたしましたのが、昨年11月に開催いたしました地域医療連携フォーラムで「愛PLANet」構想を提案いたしましたこともあって、医療関係者はもちろん行政および、地域のかたがたから、思いがけなく沢山のご意見やお問い合わせをいただきました。いずれも松山医療圏域におけるこれからの医療がどうある

地域医療連携室 開設10周年記念懇談会

松山赤十字病院連携施設の満足度アンケート調査結果について

事務副部長（地域医療連携室 副室長）

松原 隆司

昨年11月12日（月）、松山全日空ホテルにおいて、当院連携施設の医療スタッフの方々を対象とした第12回地域医療連携懇談会を開催致しました。

今回は、平成9年11月に当院地域医療連携室がその運用を開始して10年という節目にあたるため、特に「開設10周年記念懇談会」として開催したものであり、院外から162名（施設数98施設）の方

のご参加をいただき、職員も69名が参加し、過去最大規模の懇談会となりました。

今回のテーマである『新しい地域医療連携への取り組み』に添って、当院測上院長より「地域医療連携室の10年の歩み」についての講演を皮切りに、松原・渡邊看護副部長・藤崎内科部長の3人のリレー方式による「連携室の取り組みと今後の展開」に関する講演を行いました。

また、続く第2部では、当院が「地域医療連携を考える会」参加施設を当初メンバーとして、本年1月の運用開始を目途にシステム構築を進めている「愛PLANet

でしたが、併せて、今取り組んでいる地域医療連携は松山赤十字病院の象徴的な活動であるので、現在のモチベーションを維持しさらに積極的な取り組みを進めるように、とのご講演をいただきました。平成9年に地域医療連携室を開設して地域完結型医療への取り組みを開始し、平成17年に地域医療支援病院の承認を受け、いま「顔の見える連携から、心の通う連携へ」と歩んできたことがご理解いただけたと想いを熱くした次第です。

医療環境が激変する中、新年にあたって、今以上に皆様との連携を深め地域医療の充実に努めてまいりたいと思っておりますので重ねて、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

「満足」と回答された割合が

「満足」と回答された割合が

① 先生方の満足度（図1）

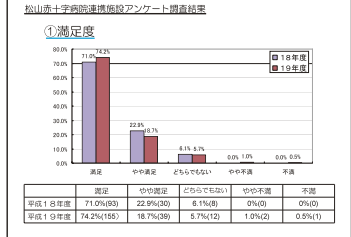


図1

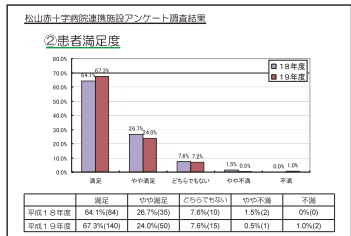


図2

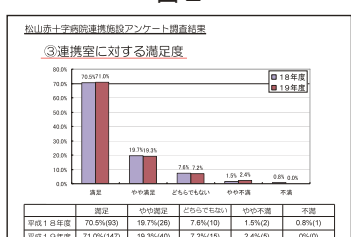


図3

この項目でも前述①②と同じような結果となっております。「満足」が微増「やや満足」「どちらでもない」が微減、「やや不満」「不満」がほとんど変化なしとの結果でした。

今回の調査結果を踏まえ、「満足」割合の維持・向上に努めることは当然であります。それ以上に「不満」に感じられている内容について精査し、場面・場面での改善対策を講じ、一層きめ細やかな対応に努めなければならないと考えます。

年々増加する紹介患者様の数的な処理に追われ、ややもすれば複雑な対応になりがちな状況の中で、いかに連携機能の質を維持・

3・2ポイント増加しております。回答総数に違いがありますが、実数で62名の増加となります。

しかし、前回にはなかった「やや不満」「不満」が、各々1・0%、0・5%ございました。

② 患者様の満足度（図2）

この項目でも「満足」と回答された割合が3・2ポイント（実数で56名）増加しております。

前回結果との単純な割合比較で言えば、「やや満足」の方の割合が「満足」に移行したとも考えられます。

③ 連携室に対する満足度（図3）

この項目でも前述①②と同じような結果となっております。「満足」が微増「やや満足」「どちらでもない」が微減、「やや不満」「不満」がほとんど変化なしとの結果でした。

今回の調査結果を踏まえ、「満足」割合の維持・向上に努めることは当然であります。それ以上に「不満」に感じられている内容について精査し、場面・場面での改善対策を講じ、一層きめ細やかな対応に努めなければならないと考えます。

年々増加する紹介患者様の数的な処理に追われ、ややもすれば複雑な対応になりがちな状況の中で、いかに連携機能の質を維持・

日赤イブニングセミナー

高齢者によく見られる皮膚病変

第6回 9月27日 皮膚科副部長 南 満芳



21世紀に入り、高齢者人口の急増が社会や医療界に大きな影響を与えています。皮膚科診療においても高齢者の占める割合は年々増加しており、高齢者皮膚に生じる疾患は診療面で種々、独特のものがあります。今回のイブニングセミナーでは、高齢者に好発する皮膚病変の臨床像、治療について概説します。

① 老化による皮膚変化

(a)アクロコルドン（頸部など）にできる褐色小結節、(b)老人性血管腫（軀幹に生じる紅色小結節、大きさは数ミリまで）、(c)陰囊被角血管腫（陰囊の黒褐色小結節）、(d)老人性紫斑（外力によって生じる紫斑、前腕・下腿伸側に多い）、(e)老人性面皰（頬部に生じる黒色面皰）、(f)老人性脂腺増殖症（前額部の黄色調小結節、中央に陥凹を伴う）、(g)老人性白斑（軀幹、四肢の直径数ミリまでの脱色素斑）…これらは基本的に経過観察のみでよいが、切除、電気焼灼を行うことがある。

② 湿疹病変

皮脂欠乏性湿疹…高齢者の皮膚は乾燥し、軽い刺激でも痒みを強く感じるようになる。このため皮膚を激しく掻破し、これを繰り返す

すことによつて湿疹化し皮脂欠乏性湿疹が生じる。下腿前面に好発し、乾燥、亀裂を伴う紅斑がみられ、冬季に悪化し夏季になると軽快する。治療はステロイド・保湿剤の外用、痒みが強い場合は抗ヒスタミン剤内服を行う。また入浴時の石鹸使用を制限するなどの生活指導も必要となる。

③ 皮膚腫瘍

(a)脂漏性角化症（老人性疣贅）…顔面・頭部に好発し、表面は粗造あるいは顆粒状で黒褐色の良性腫瘍。経過観察でよいが、整容面が気になる切除する。
(b)日光角化症…顔面・手背などの露光部に好発する、直径1cm程度の淡い紅斑性局面で固着性の鱗屑・痂皮を伴う。前癌病変であり基本的には切除する。
(c)乳房外パジェット病…外陰部・肛門部・腋窩好発する、境界明瞭な紅斑。慢性湿疹と誤診されやすい。アポクリン腺由来の表皮内癌と考えられており、拡大切除を行う。
(d)基底細胞癌…顔面の正中部に好発する。黒褐色光沢性小結節で表面に毛細血管拡張をみる。しばしば中央が潰瘍化する。転移することは稀で、辺縁から5ミリ程度は十分に切除する。
(e)有棘細胞癌…露光部に好発する硬い結節で、壊死・潰瘍化を伴う。表皮角化細胞が悪性化したもので、拡大切除を行う。

④ 薬疹

平成18年1月のイブニングセミナーで講演済みなので割愛。詳細は地域医療連携室報2006年9月第34号を御参照ください。

大腸の最新の話題

第7回 10月25日 外科副部長 宮崎 充啓



ナードで講演済みなので割愛。詳細は地域医療連携室報2006年9月第34号を御参照ください。

(a)蜂窩織炎…四肢、特に下腿に生じる急性化膿性炎症で、境界不明瞭な紅斑・腫脹を来し、局所熱感を伴う。軽微な皮膚外傷・毛のう炎・足白癬などから続発することが多い。
(b)白癬症…高齢者では足白癬は慢性化し角化型白癬となることが多い。爪白癬の合併率も上昇し、黄白色調の混濁・肥厚が目立ってくる。陰股部白癬・体部白癬は環状の鱗屑をつける紅斑が特徴である。治療は抗真菌剤外用であるが、爪白癬には抗真菌剤内服を併用する。
(c)カンジダ症…発汗や不潔が誘因となり、間擦部（陰股部・臀部・首・腋窩など）に湿潤性紅斑を生じ、辺縁に鱗屑・膿疱を伴うことが多い。抗真菌剤外用を行う。
(d)帯状疱疹…水痘罹後後に神経節に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスの再活性化による発疹症。通常疼痛を伴って浮腫性紅斑について水疱が神経支配領域に一致して生ずる。治療は抗ウイルス剤（アシクロビルなど）を投与する。高齢者に生じた場合、最も問題になるのは疱疹後神経痛（PHN）である。PHNに対しては抗うつ剤内服、神経ブロック、低反応レベルレーザーなどを症状の程度にあわせて行う。
(e)疥癬症…疥癬虫（ヒゼンダニ）の皮膚寄生によつて生じる。指間・腋窩・下腹部・陰部などに鱗屑・痂皮をつける紅色丘疹が多発する。特に指間に生じる疥癬トンネルは特徴的でこの部位を検鏡すると疥癬虫を検出しやすい。治療は当院では30%安息香酸ベンジル入りオイラックス外用を使用しているが、昨年ストロメクトール

ナードで講演済みなので割愛。詳細は地域医療連携室報2006年9月第34号を御参照ください。



座長：院長 洲上 忠彦

演者：院長 洲上 忠彦

演者：事務副部長 松原 隆司

演者：看護副部長 渡邊八重子

演者：内科部長 藤崎 智明

テーマ『新しい地域医療連携への取り組み』

第1部／講演

【演題1】「松山赤十字病院地域医療連携室の10年の歩み」

【演題2】「松山赤十字病院地域医療連携室の取り組みと今後の展開」

①「地域医療連携室の現状とアンケート結果について」

②「療養支援ナースの病棟配置について」

③「愛PLANet構想について」

第2部／質疑応答

®（イベルメクチン）が保険適用となり内服療法が可能となった。

⑥ 自己免疫性疾患

水疱性類天疱瘡…比較的大きな緊満性水疱が多発し、痒みのある浮腫性紅斑を伴うことが多い。表皮基底膜部のヘミデスモソームに対する自己抗体が検出される。治療はステロイド内服が著効し、高

年齢者の場合は比較的小量（プレドニゾン5～10mg）でコントロールできることが多い。

以上高齢者に好発する代表的な疾患を解説しましたが、ここに記載した以外にも多種多様な皮膚疾患が発生しますので、診断・治療に迷われることがありましたら、松山赤十字病院皮膚科まで気軽に相談下さい。

① 自律神経温存側方リンパ節郭清術（図3～5）

自律神経温存側方リンパ節郭清は、低位直腸癌に対する術式です。低位の進行直腸癌では骨盤内の側方リンパ節への転移は約20%の症例で認められるといわれています。このような症例に対しては以前であれば、骨盤神経を合併

する神経や血管が臓器の周囲を取り巻いています。また、その臓器自体が排便機能に直接関与しますので、直腸に対する手術によって排便機能・排尿機能・性機能に障害が生じる危険性を伴っています。さらに直腸癌術後の患者さんのQOLに關していうと最もよいことは、術後に局所再発がないことです。よつて直腸癌に対する外科的治療で重要なことは、いかにそれらの機能を温存しながら癌に対する根治性を保った手術を行うかということです。そのような目的の中で考えられた術式が、①自律神経温存側方リンパ節郭清術②超低位前方切除術です。

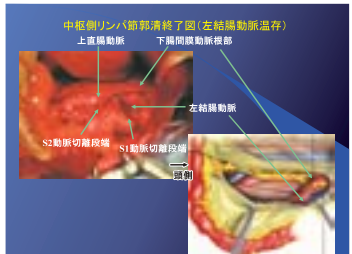


図3

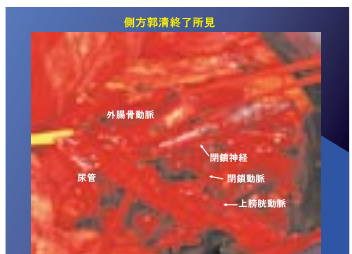


図5

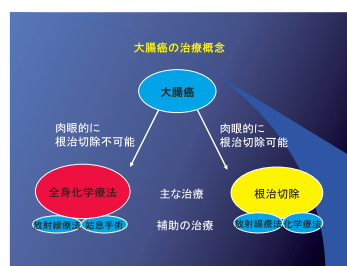


図1

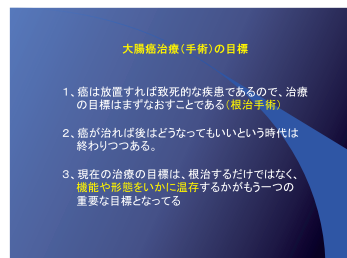


図2

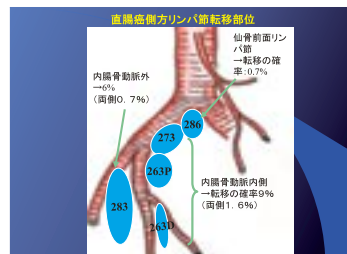


図4

外来診療担当医表

ホームページ上で随時更新しております。
http://www.matsuyama.jrc.or.jp/

H20.1.1現在

診療科目		室	月	火	水	木	金
内科	総合内科	1	定永敦司	横田英介	藤 崎	横 田	横 田
	総合内科	2	詫間隆博	詫 間	定 永	詫 間	岡田/徳山貴人
	糖 尿 病	3	岡田貴典		岡 田	和 泉	和 泉
	糖 尿 病	5	和泉賢一	近藤しおり	近 藤	近 藤	
	高 血 圧	6		村上一雄	村 上		村 上
	血 液		牟田 毅				
	血 液	7	藤崎智明	上田陽子	上 田	藤 崎	牟 田
○糖尿病教室 毎週水・金曜日 10：00～12：00（岡田・近藤・和泉） ※横田副院長不在時（火・木）は、総合内科にて牟田が診察いたします。							
肝胆膵センター	午 前		上甲康二 田中良憲 大野芳敬	上 甲 小林雄一 渡辺崇夫	田 中 竹下英次	田 中 小 林	上 甲 竹 下 大 野
	午 後		田 中 (予約/緊急のみ)	上 甲 小 林 渡 辺	検 査 (緊急のみ)	検 査 (緊急のみ)	上 甲 竹 下 大 野
胃腸センター (消化器科)	外来部門	新 患	小林広幸	藏原晃一	吉野修郎	藏 原	小 林
		予 約	砂原賢士	青見賢明	石 橋	川 崎	藏 原
	午後	新 患	石橋英樹	砂 原	担当医	青 見	川 崎
		予 約	堺 勇二	堺		小 林	吉 野
	検査	午前	内視鏡 検 査	藏原/堺 吉野/石橋 川崎啓祐	小林/藏原 砂原/青見	小林/堺 吉野/石橋 砂原	吉野/堺 石橋/川崎 青見
		午後	透視検査	青 見	石 橋	川 崎	砂 原
	部門	午後	内視鏡 検 査	小林/吉野 川崎/砂原 青見	藏原/吉野 石橋/川崎 青見	藏原/堺 石橋/砂原 川崎	小林/藏原 石橋/砂原 青見
		特殊検査・治療	特殊検査	内視鏡治療		特殊検査	内視鏡治療
	※内視鏡検査：午前は上部消化管およびS状結腸内視鏡検査、午後は全大腸内視鏡検査および特殊検査・治療。						
	※院長外来：別枠で今まで同様（火・金の午前）診療いたします。						
循環器センター	新 患	午	高橋 優	久保俊彦	松本健吾	今 村	芦 原
	予 約	前	今村義浩	芦原俊昭	芦 原	高 橋	久 保
	予 約	午後	堀本拡伸	船越公太	久 保	堺	今 村
	心 外	午前	梅末正芳		松井完治		
呼吸器センター	呼吸器科		山本昭彦	牧野英記 (再診のみ)	山 本	牧 野	山 本 (再診のみ)
	呼吸外科			隠土 薫		横山秀樹	横 山
	検査手術		手 術	気	手 術		気
☆呼吸器科：紹介状をお持ちの患者様のみ診察いたします。(月・水・木)							
腎センター		1	原田篤実	原 田	原 田	満 生	江里口 上 村
		2	満生浩司	江里口雅裕		上村太朗	
脳卒中・ 脳神経センター	神経内科		山下順章 志田憲彦	山 下 志 田	山 下 志 田	山 下 志 田	山 下 志 田
	脳神経外科		前田仁史 佐藤 斉	前 田	曾我部貴士 碓井 智	佐 藤	曾我部 碓 井
小 児 科	午前	1	小谷信行	雀部 誠	小 谷	近藤陽一 片岡京子	小 谷
		2	上田晃三	須賀久美子	西崎真理	眞 庭	高岩正典 中 野
	神経循環器		眞庭 聡 馬場健児	眞 庭	中野広輔 馬 場	眞 庭	中 野 馬 場
産婦人科	午後		液	児	ア	分	未発
	午前		横山幹文 田中泰雅 坂口健一郎	田 中 北出尚子	妹尾大作 坂 口 北 出	高木香津子 東條伸平	横 山 妹 尾 高 木
		午後	横 山 田 中 坂 口		妹 尾 坂 口 北 出		横 山 妹 尾 高 木
			手 術	手 術	手 術	手 術	

診療科目		室	月	火	水	木	金
外 科	午 前		白石 猛	和田寛也 ※(鼠)	高橋郁雄	西崎 隆 (肝・胆・膵)	高 橋
				寺師貴啓	白 石	伊地知英樹	宮崎充啓
		血	山岡輝年(再診) 郡谷篤史(新患)			山 岡 (新患のみ)	
		乳	井上博道	井 上	井 上		井 上
	午 後	小	財前善雄		村守克己	財 前	村 守
				ストーマ外来	外来手術		
	※(鼠)…鼠径ヘルニア専門						
整形外科		1	中城二郎	山本 進手	山 本	中 城股	野 田
		2	安本正徳	野田慎之脊	大前博路	安 本膝	大 前肩
		3	高沢皓文	新本誠一郎	高 沢	住吉範彦	竹内実知子
リハビリテーション科		1		田口浩之	田 口		田 口
リウマチ センター	午 前	1	仲田三平	仲 田	仲 田	水 木	山 田
		2	水木伸一	山田一人	重栖 孝	山 田	山 田
	午 後	1	手 術	仲 田	手 術	水 木	山 田
		2		山 田		山 田	山 田
泌尿器科	午 前	1	藤井元廣	藤 井	藤 井	藤 井	矢 野
		2	田丁貴俊	田 丁	荒 木	田 丁	荒 木
		5	荒木映雄	矢野 明	宮本克利	矢 野	
	午 後			予約検査		予約検査	第1・3ストーマ外来
耳鼻咽喉科	午 前	1	有友 宏	篠森裕介		篠 森	
		2	藤田健介	藤 田		有 友	
		3	上田哲平	上 田		上 田	
		手 術		手 術		手 術	
	午 後			検 査 (透視)	手 術	検 査 (透視)	手 術
※水・金曜日の診療はありません。							
眼 科	午 前	1	児玉俊夫	西谷元宏	石川明邦	児 玉	石 川
		2	島村一郎	石川和郎	島 村	金 子	西 谷
		3	金子明生		鄭 晩東		鄭
	午 後	1	児 玉		石 川		石 川
2		島 村	手 術	島 村	手 術	西 谷	
3		金 子		鄭		鄭	
皮 膚 科			南 満芳	南	南	南	南
形成外科			庄野佳孝	庄 野	手 術	庄 野	庄 野
麻 酔 科			安部俊吾		津野信輔		安 部
心療内科・ 精 神 科			竹尾重紀	竹 尾	竹 尾 (再診のみ)		竹 尾
	※原則、他院より紹介の患者様が主となります。						
放射線科	新 患 予 約		村田繁利	村 田	村 田	村 田	村 田
			吉岡真二	吉 岡	吉 岡	吉 岡	吉 岡
歯 科 口腔外科	口腔外科	1	寺門永顕	寺 門	寺 門	寺 門	寺 門
		2	兵頭正秀	兵 頭	兵 頭	兵 頭	兵 頭
		3	中川雅博	中 川	中 川	中 川	中 川
※原則、他院より紹介の患者様が主となります。 午前：月～金 11時まで初診受付							

茶色文字は前回から変更があった所です。

血血管外科 小小児外科 乳乳腺外科 手手の外科 股股関節外科 脊脊椎外科 膝膝の外科 肩肩の外科 気気管支ファイバー 再予約再診 液血 液 腎腎臓
アアレルギー 児乳児健診 喘喘息外来 代謝外来 分内分泌 夜夜尿外来 未未熟児健診 発発達外来 不不妊外来 更更年期外来 移腎移植

お 知 ら せ

松山赤十字病院登録医制度について

平成20年1月1日現在、当院の登録施設は351、登録医は481名です。
今後も随時、受付けておりますので当院地域医療連携室までお問い合わせください。TEL(089)926-9516

FAXによる受診予約について

地域医療連携室では、従来より地域のかかりつけ医の先生方からFAXによる紹介患者様の受診予約を承っております。これによって紹介初診患者様を、来院日にはお待たせすることなく、受診される診療科へご案内することが可能になり、患者様にも好評です。

是非、FAXによる受診予約をご利用頂きますようお願い申し上げます。

FAX(089)926-9547(24時間受付)

TEL(089)926-9527(平日8:30～17:10)

紹介状の有る患者様に係る診療受付時間（土曜・日曜・祝祭日・創立記念日(5/1)を除く）

○紹介状を持参で午後3時まで受付可能な診療科（毎日）

内 科	脳 神 経 外 科	循 環 器 科	放 射 線 科
外科(血管外科を除く)	小 児 科	心 臓 血 管 外 科	
消 化 器 科	腎 臓 内 科	歯 科 口 腔 外 科	

○紹介状を持参で午後3時まで受付可能な診療科（曜日限定）

整 形 外 科	火 ・ 木	泌 尿 器 科	火 ・ 木
小 児 外 科	月 ・ 水 ・ 木	リウマチ科	火 ・ 木 ・ 金
耳 鼻 咽 喉 科	月 ・ 火 ・ 木	呼 吸 器 外 科	火 ・ 木 ・ 金
皮 膚 科	月 ・ 火 ・ 木 ・ 金	産 婦 人 科	月 ・ 水 ・ 金
眼 科	月 ・ 水 ・ 金		

※眼科については連携室経由の患者のみ

○午前11時までの診療科

心療内科(精神科)	形 成 外 科	呼吸器科(月・水・木)
神 経 内 科	麻 酔 科	リハビリテーション科

注：いずれの診療科も緊急を要し地域医療連携室を通した患者様に限ります。

緊急を要しない患者様の受付は従来通り午前11時までです。

※各診療日の担当医師につきましては、学会等により代診、休診とさせていただきますのでご了承ください。